

# 保育施設運営の自己評価

令和 5 年度

評価期間 令和 5年4月1日～令和 6年3月31日

社会福祉法人 さくら福祉会 さくら保育園

# 保育施設運営の自己評価

評価項目	評価結果			
	A	B	C	D
1 保育園の使命・役割を反映した保育園の理念や保育理念、基本方針を策定し、職員、保護者等に十分な理解を促すための取り組みを行っているか。	A	B	C	D
2 理念や基本方針に沿った事業計画を策定し、職員、利用者等に周知しているか。	A	B	C	D
3 経営(運営)状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取り組みを行っているか。	A	B	C	D
4 職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善するよう努めているか。	A	B	C	D
5 研修に対しての基本姿勢が示され、個別職員に対しての教育・研修計画を策定し、実施しているか。また、研修を受けた内容や結果を職員全体に周知させ、保育業務に反映しているか。	A	B	C	D
6 実習生及びボランティアの受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備しているか。	A	B	C	D
7 緊急時(事故、感染症、食中毒発生時等)に対応できるマニュアルがあり、組織として体制を整備し機能しているか。	A	B	C	D
8 地震、風水害、火災等の災害時に対する利用者の安全確保のための取り組みを行っているか。	A	B	C	D
9 園児の安全確保のためのリスクを把握し、安全確保に向けた具体的な取り組みを行っているか。	A	B	C	D
10 調理場、水廻り、調乳設備等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施しているか。	A	B	C	D
11 虐待の対応時のマニュアルを作成し、関係機関等に通告を行う体制が整っているか。	A	B	C	D
12 不審者の侵入時等に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知しているか。	A	B	C	D
13 日々の保育の中で健康管理については、一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	A	B	C	D
14 保育サービス開始の同意を得るにあたり、サービスの内容や家庭との連携、保健や健康管理等について、保護者等にわかりやすく説明を行っているか。	A	B	C	D
15 入園当初に、子どもの成育歴、既往症、発達状況、家庭状況や課題を把握するために、保護者との面談等を行い、保育に活かしているか。	A	B	C	D
16 苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取り組みが行われているとともに、苦情解決の仕組みが機能しているか。	A	B	C	D
17 保育所保育指針に基づき、保育課程、年間保育指導計画及び月案指導計画を作成し、整合性を図っているか。	A	B	C	D
18 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮されているか。	A	B	C	D
19 内科検診、歯科検診、身体計測等の結果を保護者に知らせ、重要な部分については保護者に説明し同意を得るとともに、結果について保育での配慮がされているか。	A	B	C	D
20 アレルギー疾患等を持ち配慮を要する子どもや家庭への対応について、医師や関係機関、管理者からの助言・指導を受け保育内容や保育方法に配慮しているか。	A	B	C	D
21 子どもが健康で快適に過ごせるように、戸外遊びをはじめ園全体において整理整頓、清潔、清掃、採光、換気、照明、室温等への配慮をしているか。	A	B	C	D
22 子どもの食事の状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。また、子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携しているか。	A	B	C	D

## 評価の目安

A	出来ている。(より改善をめざします。)
B	ほぼ出来ている。
C	概ね出来ているが、まだ改善の余地が残されている。
D	努力はしていますが、なかなか満足いく結果が得られません。

A = 5点 B = 4点 C = 3点 D = 2点

評価点数(89) ÷項目数22 = (4.0)点

- ☆ 一人ひとりの保育者が、子どもの最善の利益を第一にして、計画を立て実践し、省察評価し、改善するという保育の課程を繰り返し、いい環境を作ることが求められている。
- ☆ 自己評価とは、保育に対するさまざまな思いや意欲を高めていくもの、今より質の高い保育を行うために欠かすことのできない大事なもの、子どもの育ちの保障、保育の質の向上、創意工夫しているところを見出し、さらにより質の高い保育を実現するため、課題を明確にするためのものである。

令和  
評価日 平成 6年 3月30日

評価者 園長 郷原英昭